

農業委員会だより



遊休農地解消へ農地パトロール

黒潮町農業委員会（井上道明会長、委員20人）は、10月19日、今年度の農地パトロールを実施しました。今回のパトロールでは、町内の農用地区域内を中心に平成20年度の耕作放棄地実態調査で作成した図面をもとに、遊休農地の現況・実態把握や許可案件の履行状況の確認、違反転用・不法投棄の発見に努めました。

今後は、11月から12月にかけて、町内を5地区に分け、担当地区を農業委員が交代で事務局職員と共に巡回調査します。



今後、調査結果を踏まえ、遊休農地の所有者に対して、相談やあつせん、有効活用などに取り組み、解消につなげていきます。

★視察研修（8月30日～31日）

「耕作放棄地の解消」に向けた取り組みの視察をしました。

1日目は、愛媛県西条市の遠赤青汁株式会社を視察。同社は、平成4年から耕作放棄地を借り入れて、農地として再生させ、ケールを有機栽培し、さらに青汁に加工して販売していました。近年、青汁の市場は飽和状態であることから、有機栽培ケールを原料とした化学成分を含まない無香料の石鹸や化粧品を開発し、ニンニク加工品の製造施設を整備するなど、耕作放棄地を活用したニンニクやケールの栽培に取り組んでおり、これまでに約16haの耕作放棄地を借り入れし、約14haでケールやニンニクの有機栽培を行っています。

工場で説明を受けた後、耕作放棄地と耕作放棄地解消地の現地を視察しました。



2日目は、広島県と愛媛県の県境、瀬戸内海の内側に位置する愛媛県上島町農業委員会を視察し、「町ぐるみで行う放棄地の解消に向けた取り組み」の説明を受けました。

上島町の農業は、温暖な気候と島特有の傾斜地が多いことなどの立地特性から、柑橘栽培が中心の農業生産が行われており、特にレモン栽培は昭和57年から「青いレモンの島」をキャッチフレーズに栽培普及に努め、一方で農産物の生産・販売・加工を行う第3セクターを設立し、レモンを加工した果汁やジャム、ケーキなどの特産品開発にも力を入れています。

▼非営利活動（NPO）法人豊かな島の食「岩城農村塾」

町への移住希望者の相談窓口の体制整備を行うと共に島の農漁業を地域資源として捉え、体験する「島暮らし」を通じて魅力をPRし、住民がそれらの活動に参画することにより、UターンやIターンに対する関心を高め、島で生活する若者を増やして活力増進につながる活動をしています。

▼株式会社「しまの会社」

農民が出資者となって株式会社を設立して、島の魅力を情報発信する場として「しまでカフェ」を運営し、島の資源を活かした商品開発や島の人々の困りごとをお助けする活動を行っています。

遊休化した農地を生産の最前線に復帰させ、地域の活性化を図ることの重要性を感じた研修でした。

○お問い合わせ
農業委員会

☎ 43-1888（直通）